

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会
公演団体名	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会

内容	
<p>公演当日に共演する「三番三」の小鼓と大鼓を指導します。 能楽という日頃見ることのない芸術を親しみやすく伝えるため、それぞれの専門家である、小鼓方・笛方・大鼓方（全員能楽師）の計3名でワークショップをします。なぜカケ声を掛けるのか、正座をして演奏するのか、そして何が必要なのかを解説します。カケ声をかけるのを恥ずかしがる子達が多いと思われるので、まずは声を出す練習に力を置きます。 能楽は日常の稽古が大切です。ワークショップ終了後に、小鼓、大鼓の構え方、打ち方の練習用に当方が用意した、小鼓と大鼓のレプリカを使って繰り返し練習してもらいます。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 始まりの挨拶…居住まいを正し、きちんと挨拶します。 2. 能楽ってなあに？…能楽の構成や特徴をわかりやすく説明します。 3. 小鼓ってどんな楽器？…小鼓の打楽器でありながら、一つの楽器で音色を変えられる、世界的に見ても類い希な構造や演奏法を紹介します。 4. 大鼓ってどんな楽器？…大鼓は小鼓とよく似ていますが、性質は全く正反対です。特徴と演奏法を紹介します。 5. 能楽囃子を聞いてみよう。…「安宅瀧流」を実演します 6. カケ声を掛けよう。…どうしてカケ声を掛けるのかを解説し、カケ声には何が大切なのかを解説し、みんなでカケ声を掛けます。 7. 能楽囃子を聞いてみよう。…公演当日に共演する「三番三」を実演します。 8. 三番三を打ってみよう。…公演当日に、共演する「三番三」の小鼓と大鼓を指導します。 	
休憩	10分
<ol style="list-style-type: none"> 9. 小鼓と大鼓を体験しよう。…児童生徒達に実際に、楽器に触れていただきます。 10. 質問感想コーナー…不思議に思ったこと、興味を持ったことなど、何でもお答えします。 11. 終わりの挨拶…始まりと同じく居住まいを正してきちんと挨拶をします。 	
(95分)	

タイムスケジュール（標準）
ワークショップ開始 1 時間 30 分前 到着 会場にて緋毛氈設置、楽器準備、出演者着替え 約 30 分 ワークショップ 約 95 分 楽器等片付け 約 30 分 本公演打合せ 約 20 分 ワークショップ終了 50 分後 撤収

派遣者数
演奏指導者 3 名 （笛、小鼓、大鼓）

学校における事前指導
特になし

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会
公演団体名	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会

演目

1. 始まりの挨拶と能楽の歴史の紹介
2. 各楽器解説
3. 早笛
4. カケ声で表現してみよう
5. 能楽囃子の表現法（大ベシ・流シ）
休憩
6. 三番三共演
7. 神楽
8. 獅子
9. 終わりの挨拶と質問コーナー

公演時間(95分)

派遣者数

出演者5名（笛、小鼓、大鼓、太鼓、司会者 各1名）
スタッフ1名
計6名

タイムスケジュール（標準）

本公演開始1時間30分前 到着
会場にて緋毛氈設置、楽器準備、出演者着替え 約30分
本公演開始30分前 共演者リハーサル 約15分
本公演 約95分
楽器等片付け 約40分
本公演終了40分後 撤収

実施校への協力依頼人員

1～3名
共演曲「三番三」の練習監督と、本公演30分前のリハーサルに共演者の誘導をお願いします。

演目解説

能楽の音楽性にスポットを当てた、ライブ感覚の公演です。

1. 始まりの挨拶と能楽の歴史の紹介 …居住まいを正し、きちんと挨拶をしたあと、能楽の概要や歴史をわかりやすく説明します。
2. 各楽器解説…各楽器の説明をして、能楽子の音楽としての魅力を解説します。
3. 早笛…龍神や鬼が登場する際に演奏される軽快で、ハイテンポな登場の音楽です。
4. カケ声で表現してみよう…能楽子の特徴であるカケ声を体験して頂きます。カケ声のかけ方でどんな感じに聞こえるのか、間の取り方がどんな風になるのかを体験します。
5. 能楽子の表現法（大ベシ・流シ）…大ベシは早笛と同じ旋律・リズムパターンですが、テンポが極端にゆっくりで、力強く超高速での移動を表現します。早笛と比較することで能楽子の表現法を学びます。流シでは、互いの気を感じて打つ能楽子の最高技法を体験します。

休憩 希望者は小鼓と大鼓を体験できます。（ふれあいタイム）

6. 三番三共演…翁に付随する狂言の舞曲です。大変めでたい曲で、同じリズムを繰り返して演奏します。児童・生徒と共演することで会場全体が一体となる楽しい演奏したいと思います。
7. 神楽…天照大神が隠れた、天岩戸の前で天鈿女命が舞う舞曲です。リズム、ノリの変化に富み、高い演奏技術が要求される楽曲で、大変緩急の激しく観る者をワクワクさせる曲です。
8. 獅子…文殊菩薩の霊獣獅子の舞曲です。静と動・間合のやりとり・気迫が充実した曲で、これぞ能楽子の真髄と言えます。
9. 終わりの挨拶と質問コーナー…様々な疑問にお答えします。最後に始まりと同じく、居住まいを正して、きちんと挨拶をします。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

カケ声で表現してみようでは、能楽子の基本である、カケ声を全員で体験し、能楽子の表現法では、能楽子の最高演奏技法である流シを手拍子で体験します。また、児童生徒共演のコーナーでは、児童生徒達は、ワークショップで体験した「三番三」の小鼓と大鼓を打ちます。事前に選抜した18名の児童生徒が、実際に楽器を持ち、出演能楽師と一緒に小鼓と大鼓を演奏します。選ばれなかった児童生徒達も、エア小鼓（手拍子）で参加し、全員でカケ声をかけて、会場全体での共演となります。共演の児童生徒達は、本公演に向けて小鼓のレプリカを使い、稽古用の動画DVDを見て、練習に取り組んで頂きます。

児童生徒とのふれあい

公演の始まりと終わりの挨拶をふれあいの第一歩とします。公演中も単に鑑賞してもらうだけではなく、子供達に問いかけ考えてもらうことで、互いにコミュニケーションを取ります。また、休憩中に、希望者は、小鼓と大鼓の体験出来るようにします。公演最後には、質問、感想のコーナーを設け、様々な疑問にお答えします。